



自衛隊栃木地方協力本部

地域援護センターの活動

～LRT自衛隊ラッピングを積極的にPR！「入口（募集活動）と出口（再就職支援）が繋がる」連携意識の高揚～



地域援護センター入口も「栃木地本 ×LRT」装飾でPR！



募集広報官が職場体験参加者に対し、援護センターを説明



募集広報官が職場体験参加者に対し、援護センターを説明

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 松田 桃子¹等陸佐）は令和7年10月23日から宇都宮ライトレール（LRT）の路面電車のラッピング広告車両（以下「自衛隊号」という。）を運行し、「自衛隊の職種や職域等の多様性」など、地域の皆様に自衛隊を身近に感じていただける様、積極的にPR中である。それに伴い、宇都宮駐屯地内の地域援護センターも事務所入口の装飾や来訪者へのチラシ・缶バッジの配布、ポスター掲示等を積極的に行い自衛隊号運行開始の周知を行った。また、宇都宮駐屯地内の防衛資料館に特設コーナーの設置を依頼し、一般の来場者や職場体験学習に参加した中学生等の若い世代にむけたPR態勢を確立した。

職場体験学習等の駐屯地内施設見学では、担当者が、地域援護センター前で立ち止まり、自衛隊号の紹介と自衛官の再就職支援について説明し、中学生をはじめとした多くの来訪者に自衛隊の多様な支援体制の現状を知ってもらうことができた。

援護担当者は年末の企業訪問時にもPR資料を活用し、自衛隊の募集活動を積極的にPRした。企業担当者からは「自衛隊の自衛官採用意欲の高さに好印象を受けました」「走行中のLRTにも注目して見てみます」などの感想を多数いただいた。

今回の募集PR支援を通じて、地域援護センター所員にも「出口の再就職支援が入口の募集活動に直結する」という認識が深められ、従来独立傾向のある援護業務に募集意識が芽生え、地本一丸となり、各種目標達成を意識するようになった。

栃木地本は「入口の募集活動と出口の再就職支援は一見独立業務のように思えるが、今後援護制度の優位性を募集業務に積極活用することは大変有効であると考えている。今後は地方協力本部の募集施策との連携をさらに強め、組織全体で優秀な人材を確保することに寄与していきたい」としている。



コラボバッジは好評♪援護担当者も積極的にPR

